

(株) 苫東 第 26 回経営諮問委員会議事録

- 1 日 時 令和 5 年 5 月 23 日 (火) 13 時 00 分～14 時 00 分
- 2 場 所 ホテルポールスター札幌 4 階ラベンダー
- 3 出 席 9 名
- 4 議 題

- (1) 最近の主な動き
- (2) 令和 4 年度経営概況について
- (3) 令和 5 年度事業計画等について
- (4) 第 8 次中期目標の達成状況
- (5) 第 9 次中期目標(案)の概要
- (6) 苫東地域のGXプロジェクトについて

5 委員からの主な意見

□ラピダス社が千歳に立地することによって、東京でも千歳、苫小牧エリアに対する注目度がまるで変わってきており、日本海物流を背景とした苫小牧のポテンシャルは、北海道の基盤強化という意味において非常に重要である。また、全国の道の駅を防災拠点化する構想が議論されており、苫東地域においても、防災コンテナやエネルギー関連のプロジェクトが展開される可能性もあると考えている。

□道内外問わず RE100 再生可能エネルギーを活用した製品でなければ売れない時代となってきたことから、太陽光発電を含めたゾーニング、森林確保、オンサイト PPA 等、苫東で RE100 を企業にどのように提供するのか、今後求められると思う。

□第 9 期目の北海道総合計画において、単なる理念に留まらず、具体的な政策を盛り込んでいけることは喜ばしいことである。

□脱炭素の関係では、北海道としてもゼロカーボン北海道を旗印に、北海道の強みを活かせると思っており、オフサイト PPA が広がることを期待している。また、ゼロカーボンや再生可能エネルギーの活用という中で、GX プロジェクトを契機に企業誘致が広がることを期待している。ラピダス社の関連会社 100 社以上の立地が見込まれることから、苫東地域の立地も十分考えられるため、分譲を見据えた造成の推進が必要である。

□オフサイト PPA を含む太陽光発電、バイオマス発電所、水電解の水素製造装置等、苫東地域のポテンシャルを再認識した。苫小牧市としても、半導体関連産業、データセンター、ゼロカーボン、GX に向けた企業の動きなど、時代の潮流を捉えた企業誘致に(株)苫東と連携して取り組んでいきたい

□卒FITの活用、森林のクレジット、さらには変動緩和やエネルギーの輸送のための水素、蓄電池等の誘致をしていただき、大カーボンニュートラル拠点になっていくことを期待している。

□苫東地域にウイスキー蒸留所が立地し、産業の広がりが出てきていることは苫東発展の一つの証である。

□苫東GX HUB 構想に関して、エネルギー分野では、DBJ も官公庁や再エネ事業者と密に情報交換しており、色々な情報提供ができるので一層の連携をお願いしたい。また水素、アンモニア産業の展開については、蓄電池が必要となることから、蓄電池基地の誘致を期待したい。

以上